新刊紹介

岸田民樹　編著『組織学への道』

経営情報学部　教授　　岸田民樹　編著

発行　　文眞堂

経営とは問題解決活動であり、変化する環境の下で、資源（ヒト・モノ・カネ）と情報を有意味に組み合わせる活動である。この資源と情報の効果的な組み合わせのあり方が「組織」である。こうして、組織論は、経営学の中心的な問題として、多くの研究者によってさまざまに論じられてきた。

本書は、こうした組織論（organization theories）を、人間→組織→環境という因果関係をもつ組織生成（organizing）の理論と、環境→組織→人間という正反対の因果関係をもつ構造統制（organized）の理論に整理し、これらを継時的・共時的に統合した理論体系としての「組織学（Organization Theory）」を提示する。

第 1 章「組織と階層」では、支配―服従関係を意味する Hierarchized の理論（典型的には官僚制組織）と、下位者がそれぞれ全体をイメージする Hierarchizing の理論(典型が Loosely Coupled System)の対立を論じる。第 2 章「組織生成と構造統制」では、これまでの組織論を、Organizing(人間→組織→環境)の理論と Organized（環境→組織→人間）の理論の対立であったと捉え、両者の継時的・共時的・統合の道を探る。第 3 章「社会―技術システムと作業組織の生成・発展」は、組織の下位システムとしての作業組織を、社会システムと技術システムの統合の観点から論じる。第 4 章「高信頼性組織の構造統制と組織化」では、Organized の理論としての「ノーマル・アクシデント理論」と、Organizing の理論としての「高信頼性組織（マインドフル組織）の理論」の統合の可能性を探る。第 5 章「組織間関係の生成と統制」では、組織セット・モデルに通じる環境操作戦略を Inter-organizing の理論、組織間関係システムの議論を Inter-organized の理論として、両者の統合を図る。第 6 章「制度と実現―制度の生成と統制―」では、組織―制度―社会という枠組みを設定して、制度の生成と制度の統制を論じ、社会学的制度理論と Weick 理論との統合を図る。

以上本書は、人間が形成した組織や社会（Organizing）と、人間を規制する組織や社会（Organized）との、両方の因果関係をもつ複雑な現代社会を、統合的に説明する枠組みを探る試みである。

（196 ページ、定価=2500 円+税）